

「第 14 回河川整備計画策定専門家委員会」議事概要

日時 平成 30 年 9 月 14 日（金） 午後 4 時 00 分～午後 5 時 50 分

場所 東京都庁第二本庁舎 31 階特別会議室 24

出席委員（名簿順）	宮村 忠	関東学院大学工学部名誉教授
	山田 正	中央大学理工学部教授
	三島次郎	桜美林大学名誉教授
	土屋十囀	前橋工科大学工学部名誉教授
	長谷川敦子	東京都島しょ農林水産総合センター 振興企画室長
	小倉紀雄	東京農工大学名誉教授

議事 (1) 都における河川整備計画の策定状況について
(2) 現場視察報告
(3) 渋谷川・古川河川整備計画（変更原案）について
(4) 海老取川河川整備計画（変更原案）について
(5) 今後の予定について

○河川整備計画策定専門家委員会設置要綱の改正について

→事務局より説明を行い、了承を得た。

(1) 「都における河川整備計画の策定状況」及び (2) 「現場視察報告」について
→事務局より説明を行った。

(3) 渋谷川・古川河川整備計画（変更原案）及び (4) 海老取川河川整備計画
（変更原案）について
→事務局より説明を行った。以下は委員からの主な意見。

【渋谷川・古川について】

- ・上流付近の沿道の散策路の整備については、民間企業と協同して良くできているが、下水道の幹線とつながっていることもあり、臭気が気になった。上流側の下水道施設や導水している高度処理水については、下水道の水質基準だけではなく、今後も関係部局と調整して環境の向上に取り組んでいけると良い。
- ・渋谷川ではトイレトーパーが流れ込むことや悪臭があったこともあり、下水道が合流改善を行ってきた。整備計画の渋谷川上流端付近の調節池は、下水道と調整し河川環

境の改善も考えていって欲しい。

- ・渋谷川の護岸はコンクリート3面張りで単調であるため、治水上の問題もあると思うが、景観にも配慮したようなもので整備できると良い。
- ・都市河川では現実的には解決が困難な課題があるが、河川整備計画以外にも、長い目で見て夢のあるような、遠い未来にはこうあって欲しいという視点を持ち、河川整備の研究を続けて欲しい。
- ・「春の小川」という歌の舞台でもあるように、歴史や文化があった川だということを意識しつつ、少しでも石積みや緑化などを行うことで、環境や景観に配慮した整備が出来るとう良い。
- ・韓国ソウルの清溪川では暗渠化して高速道路としていた河川の蓋を外して親水空間を整備している。渋谷川・古川でも他都市河川の事例を参考に、少しの区間でも親水空間が出来ると良い。
- ・都民には、雨が降れば下水道の水が流れ出ることがあることや、長期的な整備としては治水水準を1時間あたり100mm規模の降雨としており、現在は1時間あたり75mm規模の降雨に対応する整備をしているが、整備には莫大な費用を要すること、また75mmでは決して安全ではないことも知ってもらわなければならない。
- ・事業費を考えないという前提で、首都高速道路の撤去などの課題を、将来ビジョンとして研究していければ良いと思う。

【海老取川について】

- ・オランダやデンマークでは、学生が川を利用してカヌーやカヤックで遊んでいる。都においても、健全な回遊性レジャーを楽しめるような仕掛けづくりや整備に取り組んで欲しい。
- ・羽田付近は、昔は白い砂浜だったが今はヘドロの海となっている。ヘドロを処理できるような対策にも試験的に取り組んでほしい。
- ・これまで高潮と洪水が同時に起きないことを前提に計画を策定しているが、今後は高潮と多摩川の洪水が同時に来た際の議論も必要である。

【共通事項】

- ・感想として、今回のような計画降雨の変更を「計画変更」というのが気になる。昔、不用河川という言葉があったように、川を埋めること等といった思い切った絵を書いてみても良い。河川に対する人々の関心を高めることが必要だと思う。
- ・生物の住みやすい環境に留意して整備をして欲しい。

(5) 今後の予定について

→事務局より説明を行った。

(以上)